

令和7年度事業(報告)

事業担当部署

学術 部会

報告者

眞野由香子

事業区分	公益3
事業名称	全職域対象 基礎研修会
目的	2020年に発行された「日本食品標準成分表2020年版(八訂)」のデータの一部を更新・追記した「日本食品標準成分表(八訂)増補2023年」が2023年4月28日に公表されました。食品成分表は、栄養指導、給食管理、食品表示、研究など、栄養士の業務において基礎となる重要な資料です。本研修会では、最新の成分表の改訂ポイントや活用方法について知識を整理し、日々の業務における実践力の向上を目指します。
事業概要	日時 令和7年8月2日(土) 11:00 - 16:00
	場所 栄養士会事務局 および オンライン ※参加者はオンラインのみで告知
	対象及び参加予定数 会員および非会員 100名
	内容のプログラム等 八訂 食品成分表の正しい認識と活用方法について講義いただく 講師:渡邊智子先生を予定。症例発表:現場での活用例発表【医療・福祉:内林さん、勤労:平岩さん、学校・公衆:杉浦さん】
	参加者 45名
結果と成果	結果概要等 研修会報告書コメント(要点) - 参加者アンケートより:成分表の数字だけで見るのではなく、活用方法にも関心を寄せること重要。 - 食品成分表が7訂から8訂に改定され、エネルギー算出値が低くなり現場で混乱が生じた。 - 食事摂取基準は7訂ベースのため、栄養素給与目標量との乖離が課題に。 - 現場対応は様々:7訂に戻す、主食量を増やす、計算上のみ増量など。 - 渡邊講師より「最新の成分表を使用しつつ、7訂(2015年版)のエネルギー量も参考に」と助言。 - 対象者に応じて柔軟に対応することが重要。 - 成分表の備考欄をよく読み、栄養計算ソフトだけに頼らない姿勢が求められる。 - 上原副会長の「成分表は面白い読み物」との言葉が、講義内容とよく結びついた。

		収入金額	支出金額	残額
当初予算	R7年度予算	予算収入 175,000	109,630	65,370
		職域の予算基礎額 0		
当年度実績	基礎研修等 実績	52,000	79,376	-27,376

予算	収入	科目	金額	積算基礎	
		事業収入	70,000	会員研修参加費	1000 円 × 70 名
		"	60,000	一般研修参加費	6000 円 × 10 名
		"	45,000	他県会員参加費	3000 円 × 15 名
		"	0	学生参加費	0 円 × 5 名
	計		175,000		
	支出	諸謝金	50,000	講師料	50,000円 × 1名
		諸謝金	30,000	パネリスト料	10,000円 × 3名
		旅費交通費	6,000	パネリスト交通費	(2,000円 × 3名)
		"	6,000	運営委員交通費	(2,000円 × 3名)
		通信運搬費	3,000	車両(1台) @25円/km	
		振込手数料	10,500	Payvent手数料 参加費合計金額	175,000 × 0.06 = 10,500
		"	330	栄養士会への振込手数料	
		事業運営費	1,800	お茶等(パネリスト3名、委員3名) @300	
		"	2,000	消耗品費	
	計		109,630		
決算	収入	事業収入	41,000	会員研修参加費	1000 円 × 41 名
		"	2,000	会員研修参加費(現金)	1000 円 × 2 名
		"	6,000	一般研修参加費	6000 円 × 1 名
		"	3,000	他県会員参加費	3000 円 × 1 名
		"	0	学生参加費	0 円 × 0 名
	計		52,000		
	支出	諸謝金	50,000	講師料	50,000円 × 1名
		諸謝金	20,000	パネリスト料	10,000円 × 2名
		旅費交通費	3,400	運営委員交通費	(3名)
		振込手数料	3,000	Payvent手数料 参加費合計金額	50,000 × 0.06 = 3,000
		"	66	栄養士会への振込手数料	
		事業運営費	2,500	弁当代等(パネリスト、委員 5名) @500	
		通信運搬費	410	郵送代	
	計		79,376		

広報-HP,生涯教育,食育推進,在宅医療-介護,スポーツ栄養・JDA-DAT 委員会

日 時	4月12日(土) 時間:10時00分~10時40分	場 所	Zoom
出席者	出席:後藤千穂(委員長, 研教), 内林英子(部長, 福祉), 高橋恵理香(医療), 近藤文(学術部・研教), 吉田明子(担当三役, 医療), 永戸馨子(事務局) 欠席:服部しげこ(地活), 塩野恵子(勤労), 谷口郷子(学校), 森田充留(公衆), 眞野由香子(学術部, 公衆)		
協議事項 及び 決定事項	<議題> 1. メンバー確認 会議担当決め [会議設定、司会、書記] 4月会議(当会議)の司会は内林、書記は近藤に決定した。 2. 本年度運営 ① 生涯教育基本研修(後藤) ・資料を用いて研修日程決定・内容についての確認 ・会場費と参加費を栄養改善学会と栄養士会で折半する ・参加者には、日本栄養士会生涯教育家基本研修単位の付与がされる ・吉田からファーストステップ編の参加費は「三役会の意向として、昨年同様でよい」と報告された ・研修会当日の手伝いとして、委員会メンバーが各日2人ずつ程度参加 →7月中旬に調整さんを用いて調整する(担当:内林) →委員会メンバーが研修会を受講したい場合には手伝いにはこだわらない 3. 来年度運営 ① 課題 議事録書記は、適宜交代とし、司会は内林または吉田が担当する。 ② 研修 ・8月に成分表に関する研修会(Zoom ウェビナー)を予定し、会場は事務局、運営委員は3人とする(未経験者を優先)。 ・調整さんを用いて、人員調整(担当:内林) ③ 生涯教育基本研修 ファーストステップ編 8/31、生涯教育基本研修 初級編 9/21, 10/19, 12/14 を予定。 ④ 実践報告会 2025 2026年1月24日に実施予定。 4. 次回会議日程 8月の上旬を予定する。日程調整メールの配信をする(担当:内林) 以上		
理事会での 検討事項	生涯教育基本研修関連事項、研修会関連事項		
今後の 検討事項	生涯教育基本研修関連事項、研修会関連事項		
委員会の課 題	生涯教育基本研修関連事項、研修会関連事項		

令和 7 年 8 月 理事会報告

広報-HP,生涯教育,食育推進,在宅医療-介護,スポーツ栄養・JDA-DAT 委員会

日 時	8月5日(火) 時間:18時00分~19時00分	場 所	Zoom
出席者	出席:後藤千穂(委員長, 研教), 内林英子(部長, 福祉), 高橋恵理香(医療),服部しげこ(地活) 吉田明子(担当三役, 医療), 谷口郷子(学校), 眞野由香子(学術部, 公衆), 永戸馨子(事務局) 欠席:塩野恵子(勤労), 森田充留(公衆), 近藤文(学術部・研教)		
協議事項 及び 決定事項	<議題> - メンバー確認 8月会議の司会は吉田、書記は眞野に決定した。 - 本年度運営 - Zoom 勉強会 - チームで発表する方を対象者として想定していたが、昨年の応募はなかった。 - 今後も門戸は開いておき呼びかけは継続。ファーストステップ編で告知予定。 - 実践活動報告 2025 - 午後開催とし、ラウンドテーブルディスカッションの時間を多く取る。 - できるだけ多くの部会から発表を募る。研究発表や体験報告などスタイルに限らない。 - 昨年は発表者がなく、呼びかけを直前まで行った経緯がある。本年度の状況確認。 学校健康教育部会から発表者予定あり。公衆衛生部会からも用意がある。 - 来年度運営 - 学術部、生涯教育基本研修 - 日栄シラバスの実務研修に当たる研修会開催を目指す。コロナ前に開催していたスクリーニングやアセスメントを含めた症例検討会が例になる。テーマを「食物アレルギー」や「肥満」などとし、病態グループワークとして各職域での対応方法を共有することについて理事会で検討。 - 日本栄養改善学会東海支部会との共催の継続。 - 実践報告会 2026 - 他団体の学会発表がある中で、当会の意義が分かり辛いという意見が出ている件について検討。課題を取り上げてラウンドテーブルディスカッションに特化することについて審議した。結果、賛成多数となった為、理事会で検討。 - 内容について、午後開催継続。 - 事例発表 1~2 例 - ラウンドテーブルディスカッション - 追加事項 「各部・職域部会・委員会状況報告書」の提出について、生涯教育委員会の担当は後藤、学術部会は内林とする。 ① 事業の進捗状況 - 学術部会:8/2 の研修会を含めて記載。生涯教育委員会:予定通り実施と記載。 ② 会員増加対策 - 日本栄養改善学会東海支部会と共催で異なった窓口からの入会に期待。 ③ 次期役員選出や引き継ぎなどの課題 - 若い会員の意見も取り入れる必要があるため、役員の世代交代が課題。		

	④ その他 ・委員会のメーリングリストの個人管理に限界がある。事務局に作成をお願いしたい。 5. 次回会議日程 時期：10 月中旬以降 内容：実践報告会 2025 の各部会からの発表者の有無を確認 以上
理事会での検討事項	1. 次年度の活動（学部主体）として、日栄シラバスの実務研修に当たる研修会の開催を目指すことについて。（参照 3-①） 2. 次年度の実践報告会 2026 について、課題を取り上げてラウンドテーブルディスカッションに特化することについて。（参照 3-③） 3. メーリングリスト活用について。（参照 4-④）
今後の検討事項	実践活動報告 2025 について、事業内容、役割。
委員会の課題	特記事項なし。